

豊かな自然に ひと・もの・まちが輝く健康都市 網走

市議会だより

第105号
(令和3年11月)

発行／網走市議会 編集／網走市議会広報委員会



【もくじ】

トピックス	2～3 P
一般質問	4～6 P
政務活動費の執行状況	
議案審査結果	7 P
議会報告会・意見交換会	8 P

市民のみなさまの傍聴をお待ちしております

次の定例会は12月7日(火)
～12月16日(木) 開催予定です。

※詳細につきましては、議会事務局へ
お問い合わせください。

■問い合わせ：TEL 44-6111(内線281・282)



中継ホームページは
こちらから

「はな・てんと」は市民の皆様の協力によりできています (表紙写真：尾形 衛さん撮影)

9月定例会のトピックス

第3回定例会概要

第3回定例会は9月7日から開催されました。令和3年度的一般会計に4億1473万円、介護保険特別会計に4445万円、緑地区小水力発電施設の維持管理に関する事務委託について、斜里町の下水汚泥堆肥化に関する事務受託について、財産取得について、市道の路線認定及び廃止について、一般会計（商工振興費）補正予算に係る専決処分の報告について議案等が提案され、それぞれの常任委員会に付託されました。

総務経済委員会では、ジャガイモシロシストセンチュウの緊急防除作業を実施した農地への防除協力金の追加補正、観光果樹園地整備事業、



就農者支援施設整備事業、漁網・漁具洗浄施設整備事業、トラックスケール整備事業、新型コロナウイルス感染症対策支援、公園遊具の改修費、道路災害復旧事業などについて審査を行いました。

文教民生委員会では、消費者生活推進事業（悪徳商法注意喚起）網走厚生病院脳神経外科の運営に対する負担金の

追加、ごみの広域処理の検討業務について、新型コロナウイルス感染症予防対策（スクールバス増便）、学校遊具安全対策事業、老朽化した学校施設の改修、体育施設改修事業などについて審査を行いました。

いずれの常任委員会も慎重に審査され委員全員の一致により原案は可決されました。

9月14日から10名の議員による一般質問が行われ、最終日の9月28日は追加議案、総務経済委員会に新庁舎及び外構の実施設計に係る経費の追加、新型コロナウイルス営業継続支援事業（宿泊事業者に對する支援金の追加）、文教民生委員会に新型コロナウイルスワクチン

接種に係る経費の追加、小中学校管理費の追加（休校時の貸出用通信機器整備・校内感染症対策支援）が提出されこちらも委員全員一致で原案可決されました。会期中には令和2年度各会計決算審査特別委員会が設置され、一般会計、特別会計、水道事業会計について審査を行いました。

その他、辺野古新基地建設の中止と普天間基地の沖縄県外移転に関する陳情他4件の審査をしました。



9月定例会のトピックス

決算審査特別委員会報告 令和2年度各会計決算を認定

9月の第3回定例会では、決算審査特別委員会を設置し、令和2年度予算（一般会計及び6特別会計、3公営企業会計）の執行状況や事業の到達点、課題などについて詳細な審査を行いました。

今期の決算審査特別委員会は議長と議会選出の監査委員を除く、議員14名（途中1名辞職）で構成。9月7日に1回目の委員会を開き、委員長に金兵智則氏（民主市民ネット）、副委員長に古田純也氏（志誠会）を選出しました。

その後、担当部課別に実質4日間での細部審査を行い、事業目的

に対する達成度や事業実施から判明した課題などについて議論を深めました。

議論の内容としては、新型コロナウイルスの感染拡大により、市の各種施策や市内観光、飲食業等に経済的影響が、また市税の減収やイベント中止等による歳入の減少がありました。歳出では、衛生管理や経済対策などで対策が実施され、基金を活用して早期に対応してきたことは評価できるといった意見の一方で、デジタル化などの活用により市民サービスの充実に努めるとともに、財政の健全化に向けた取組に努めていただき

たい。また、廃棄物処理場の問題、新庁舎建設に向けた取組等、課題解決に向けた真摯な取組を望むなどの意見もありました。

また公営企業会計においては、老朽化に伴う施設の更新や維持管理に多額の経費が見込まれるが、国の支援制度をより一層活用し、市民の理解を得ながら計画的に進めるべきといった意見もありました。

審査の結果、認定第1号令和2年度各会計歳入歳出決算は大方の意見を持って原案認定。認定第2号令和2年度水道事業会計、認定第3号簡易水道事業会計、認定第4号下水道事業会計の3つの事業会計の利益の処分及び決算は全会一致で原案可決及び認定されました。

新型コロナウイルス感染症 対策特別委員会

令和2年初頭から世界中を震撼させた新型コロナウイルスにより、私達の日常生活は激変しました。国・道・市が連携し、さまざまな対策を講じてきました。一方で市民の皆さんに十分な情報提供がなされない状況もありました。当委員会では情報の開示について議論し、決議しました。また、コロナ対策に特化した議論を重ね具体化してきました。

長引くコロナ禍にスピード感をもってポストコロナを見据えた対応をしてまいります。

引き続き緊張感をもって議員全員で取り組みますので、市民の



一般質問から

小中学校の教育環境
整備について

志誠会 古田 純也



問) 各校は夏休みを活用し、学力向上などを実施しているが、本年度の実績は。

答) 市内小中学校は1週間程度の学習サポートを実施している。本年度の夏休みは10校で実施したが、小学校5校は新型コロナウイルス感染拡大防止などの観点から学習サポートを中止したほか、小中学校各1校は暑さのため、当初予定日程の途中で中止している。

問) 学校の暑さ対策について、快適に学習できる環境整備について対応は必要だと思うが教育委員会の認識と対応は。

答) 酷暑での学習や体育の授業は、体調に異変をきたすことも十分あり得るものと考え、室内での熱中症対策も求められている。

コミセンなどでは、熱中症予防のためのシェルターとして、冷房設備を備えていることから、これと同じ考え方で、体調を崩した児童生徒に備えて、保健室の冷房設備設置について検討していく。

これからのまちづくり
について、など

民主市民ネット 川原田 英世



問) 性的少数者へのパートナーシップ制度の取り組みについては。

答) 北見など、方針決定している地域から情報を得ながら検討していく。

問) 市の職員の初任給について、都市部で最低賃金割れがあった。市の状況は。

答) 網走市ではそういった状況はない。今後の最低賃金の状況も注視し、対応する。

問) 市長・教育長の、これからのまちづくりに対する考えは。

答) 教育行政の推進について、次の時代の人々を育てていくことを目標に、取り組んでいる。網走にはさまざまな魅力があり、まだ気が付いていないものもある。そういった中で子どもたちが夢を持ち、豊かな人間性を育てていくまちを目指していく。市政の推進について、コロナ禍を経て、デジタル技術の普及に合わせて、地域の変化を進めていかなくてはならないと考えている。

女性デジタル人材、
18歳成年教育、金融教育

公明クラブ 永本 浩子



問) 当市の女性の就労状況は。

答) 就労は76%、未就労24%中、働きたくても子育てや介護で働けない女性は66%いる。

問) 長野県塩尻市のように女性デジタル人材の育成と、好きな時間に好きなだけ在宅やオフィスで働ける体制作りに取り組むべき。

答) 塩尻市の事例は大変参考になる。様々な制約で働けない方が柔軟に働ける体制作りは重要。デジタル人材育成の検討は必要と考える。都市部企業からのアウトソーシングも出来るところから取り組んでいきたい。

問) 来年4月から成年年齢が18歳になる。消費者トラブル回避のための教育が必要では。

答) 昨年「成年年齢変更啓発チラシ」を作成し全高校生、東京農大新1年生に配布。中学校で出前講座も行った。今後も若年層向けの消費者教育と周知・啓発に取り組んでいく。
※この他、来年度から始まる「金融教育」への認識や準備状況についても質問しました。

学校給食、
集会施設について

志誠会 立崎 聡一



問) 安心安全な給食の提供は市民の総意。小規模校の困難な状況。民間委託の可能性は。

答) 小規模校の安定的な給食の提供は喫緊の課題。体制の構築は急務。民間委託の議論は、小規模調理場の集約を進め安定的な給食の構築を進める。その上で民間事業者取組、内容を把握し研究していきたい。

問) 郊外の集会施設、市街地の集会施設は老朽化が進み大規模改修や建て替えの時期。高齢化対策を含め今後の対応は。

答) 郊外集会施設は、市公共施設等総合管理計画に基づき個別施設計画に沿って維持管理する。高齢化対応の具体的要望に検討実施していく。市街地集会施設は、市の補助事業を活用し、2020年度より和室のフローカーペット化や手すり、スロープの取付、机やいすの軽量化など施設改修を計画的に実施している。

一般質問から

市政執行・市民のための
行政運営について

同志会 小田部 照



問) 市長への手紙、メールの質問・回答内容は、市民が今どのような事を望んでいるのか、また、市がどのような事を考えているのかを知る大切な機会となる。公開すべき。

答) 質問内容や回答を市民と共有することは大切。原文すべてを公開するのは難しいが、項目別にするなど検討していきたい。

問) 町内会の地域要望についても公表すべき。

答) 情報共有が望ましい要望について、今後具体的なルールを検討し、公表を進めていく。

問) 市議会での議員からの質問に対し、市側答弁で「検討する」等と答弁した後、市役所内部ではどのような取り組みがされているのか、その後の進捗状況を公開することで市の考え方がわかり、より身近な行政運営につながると考えるが、市の考えは。

答) 他市の状況などを踏まえ、研究していきたい。

廃棄物処理場について

日本共産党議員団 村椿 敏章



問) 計画を上回る埋立量だが、埋立地はあと何年使えるのか。

答) このままでいくと2026年までの5、6年。生ごみ処理機の増設で、2年は延びる。

問) 5、6年というのは驚きだ。2期目の埋立地の計画はいつするのか。検証はするのか。

答) 処分場のあり方は、これから行う広域化の調査の実施とともに検証し、検討する。

問) 埋立量増の原因である違反ごみの処分方法はどうなっているのか。

答) 月6400個の違反ゴミは違反シールを貼り、出し直しをお願いし、一定の期間を置いた後に収集。分別せずに埋め立てている。

問) 処分場に違反ごみを分別する人員の配置はできないのか。

答) 配置は考えていない。市民に分別の徹底をお願いする。

※他に、ひきこもりの対応、学校給食の災害時活用などについて質問しました。

どこバスについて・
特別支援教育について

民主市民ネット 金兵 智則



問) 今後の公共交通において「どこバス」は有力な手段。策定をした計画の前倒しも含めて、早期導入を検討するべきと考えるが？

答) どこバスは利用者減少や利用者ニーズに対し、業務の効率化・利便性の向上など公共交通の維持に向けて有効な手段。本格導入に向けて取り組む中で、早期導入に向けては事業者や協議会と議論を重ね、出来ることについては考えていきたい。

問) 支援を必要としている子どもや保護者に対し、就学先の決定に向けて選択肢を広げるためにも指定校変更・区域外就学制度の積極的な周知を求めたいと考えるが見解を。

答) 制度については、小中学校入学前の就学時健康診断の中で、保護者に周知を図ってきたが、周知の回数なのか、より丁寧に伝える中身なのかを検討し、十分に伝わるように対応したい。

※周知に関して今年度からの対応を求めました。加えて支援教育の環境整備について質問。

ごみ処理施策の現状は
DX に向け全業務調査を

志誠会 近藤 憲治



問) 当市のごみ最終処分場の埋め立てペースが計画よりも早い状況を改善しようと、生ごみたい肥化施設の増強や紙おむつを大空町に輸送した上での焼却を行ってきたが効果は。

答) 生ごみたい肥化は目標量の6割程度。紙おむつは8月中旬以降、試行的に発生量全体を輸送し、焼却処理している。

問) 最悪の事態を想定して次期最終処分場の整備に向けた準備に入るべきだと考えるが。

答) 令和2年調査で残余量はあと5、6年。生ごみたい肥化の能力増強等で2年以上の延長が可能だが次期最終処分場は時期を逸することの無いよう整備に向けた準備を進める。

問) 自治体がデジタル・トランスフォーメーション(DX)を進める前提として行政の全業務を調査し「公務員がすべきこと」「デジタル技術等で代替できること」の仕分けを。

答) 全ての事務事業にデジタル化を前提にした仕分けが必要であると認識している。

一般質問から

市民への情報提供・
統廃合も含めた給食問題

栗田 政男



問) コロナ禍で市の情報発信の少なさが、多くの市民から指摘された。積極的な情報発信が必要では。

答) 外出の行動制限等の緊急性がある場合には、防災ラジオ・広報車の活用も必要かと。

問) 少子化時代に向けた学校の統廃合についての基本的な考え方は。

答) 現段階では考えていないが、検討する時期に来ていると思う。

問) 人材不足を理由に集約化と民営化を考えているようだが、今やるべきは調理員の労働環境の改善では。また教育環境の充実が街の将来を左右する。給食問題を通して未来の可能性を考えては。

答) 本年度から研修含め取り組んでいく。給食問題は大変難しい問題と捉え、これからも検討していく。

加齢性難聴者への補聴
器の助成制度を

日本共産党議員団 松浦 敏司



問) 4年後には団塊の世代の全ての人々が75歳以上になり、約700万人が認知症になるとの推測もある。要因の一つに加齢性難聴があるといわれ早期発見・早期治療が必要と思うが見解を。

答) 加齢に伴う難聴は老化現象の一つであるが、他にも大音量などの要因もある。検診など医師への相談により早期治療での補聴器を使用することが望ましいと考える。

問) 日本は、補聴器の普及が欧米に比べ極端に低い状況だが、理由について伺う。

答) 欧米では医師の診断があれば、購入費の補助がある。日本では制度がなく障害者手帳6級以上が対象のため普及が低いと考える。

問) 難聴が進行すると認知症発症のリスクも高まる研究報告もあるが見解を。

答) 難聴によりコミュニケーションが困難になり、認知症のリスクも高くなる。介護予防事業や認知症施策に取組が必要と考える。

広報委員会が新体制になりました

川原田英世氏の議員辞職（9月15日付）により広報委員会は新たに下記の体制となりました。引き続き情報発信に努めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

【広報委員会】

委員長 古田 純也
副委員長 石垣 直樹
委員 澤谷 淳子
村椿 敏章
山田 庫司郎



令和2年度政務活動費の執行状況

	人数	交付額	決算額	執行率
志誠会	6名	720,000	82,341	11.4%
民主市民 ネット	4名	480,000	480,000	100.0%
公明 クラブ	2名	240,000	76,310	31.8%
日本共産党 議員団	2名	240,000	240,000	100.0%
無会派 (工藤英治)	1名	120,000	96,025	80.0%
無会派 (栗田政男)	1名	120,000	120,000	100.0%
計		1,920,000	1,094,676	57.0%

令和2年度の政務活動費は、議員1名に対し年間12万円を会派の代表者に交付し、会派に異動があった場合は月単位で精算します。

表には会派ごとの交付額・決算額が書いてありますが、執行率が100%に達していない会派は、政務活動費の残金をそれぞれ市に返還しています。

収支報告書は、議会事務局で閲覧できます。なお、市議会ホームページでも公開しております。

第3回定例会（9月）の議決結果について（9月2日～9月28日）															
議案と議決結果 （○：賛成、×：反対） ※議長は、議決に加わりません。	志誠会			民主市民ネット			公明クラブ		日本共産党議員団		同志会		無所属		
	近藤憲治	立崎聡一	古田純也	金兵智則	平賀貴幸	山田庫司郎	澤谷淳子	永本浩子	松浦敏司	村椿敏章	石垣直樹	小田部照	工藤英治	栗田政男	
○議員別議案賛否一覧表（賛否の分かれた議案）															
認定第1号 令和2年度網走市各会計歳入歳出決算について	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	
○全会一致で可決・認定・承認した議案・意見書案等															
認定第2号 令和2年度網走市水道事業会計の利益の処分及び決算について						議案第5号 財産の取得について									
認定第3号 令和2年度網走市簡易水道事業会計の利益の処分及び決算について						議案第6号 市道の路線認定及び廃止について									
						議案第7号 令和3年度網走市一般会計補正予算									
認定第4号 令和2年度網走市下水道事業会計の利益の処分及び決算について						議案第8号 新型コロナウイルス感染症対策特別委員会の委員定数の変更について									
議案第1号 令和3年度網走市一般会計補正予算						報告第1号 令和3年度網走市一般会計補正予算に係る専決処分の報告について									
議案第2号 令和3年度網走市介護保険特別会計補正予算															
議案第3号 緑地区小水力発電施設の維持管理に関する事務委託について						意見書案第1号 国土強靱化に資する社会資本整備等に関する意見書提出について									
議案第4号 斜里町の下水道汚泥堆肥化に関する事務受託について															



議会だよりを音声でお届けします

朗読ボランティア団体『声の図書館そよかぜ』は、音読や訪問朗読などの活動をしています。平成13年から目の不自由な方やご高齢の方々のために「議会だより」を朗読したCDを作成し、御希望の方々に無償で配布しております。

※ CDをご希望の方は、網走市議会事務局までご連絡ください。

トピックス

議会報告会・意見交換会概要

網走桂陽高校で出前授業を開催！

未来のまちを担う高校生たちの政治参画意識の向上を図ろうと網走市議会は8月25・26日の両日、網走桂陽高校の生徒と意見交換会を実施しました。

今年度も新型コロナウイルス感染症の最中ではありましたが、網走桂陽高校側からの強い要望もあり対面での開催になりました。網走桂陽高校、市議会双方とも新型コロナウイルス感染症予防対策に万全を期することから、会場は体育館。注意事項として、実施当日までの体調管理、体調不良時の出席自粛、会場入場時の手指消毒、マスクの着用、換気の徹

底、実施当日の検温を徹底しました。

網走桂陽高校との共催で企画。市議会12名が3年生126名（普通科A組37名・B組36名・商業科C組31名・事務情報科D組22名）と「選挙に行こう!!」をテーマに意見を交わしました。

前段は、事前アンケートで「選挙権を得たら選挙に行く」と答えた生徒が7割。これを受け地方議会が担っている役割や選挙の意義について議会側から説明。その後、グループに分かれ、「どんな選挙だったか若者が投票に行きますか」という視点で見交換をしました。意

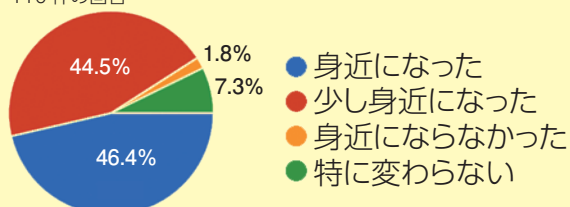


見交換では、「スマートフォンやパソコンを使いインターネット、SNSでの投票」「投票すると何か特典があると投票に行く」「明るい雰囲気、楽しい雰囲気、工夫をして暗いイメージをなくす」などの声がありました。



今回の出前授業に参加して、市議会または市議会議員は身近になりましたか。

110件の回答



今回の出前授業に参加して、「選挙の際は投票に行こう」という気持ちが高まりましたか。

109件の回答

